

# 「鉄は熱いうちに打て」、 Academic Surgeonの育成。

## 研究マインドを持つ 外科医の育成が急務

1978年に設立された高知大学医学部外科学講座外科1は、これまで30年以上にわたり、主に消化器腫瘍を柱に運営されてきた講座である。2006年からは現主任教授の花崎和弘氏を中心に、高知県の外科医療発展のために心血を注いでいる。花崎氏は、昨今の外科医不足に鑑み、若き外科医の育成に注力することこそが現在の最重要課題であると考え、就任当初より「研究マインドを持つすぐれた外科医 (Academic Surgeon) の育成」という大目標を掲げている。「医学教育を通じて母校愛を培い、多くの医学生に高知に残ってほしいと思います。また、臨床実習や初期研修を通じて外科学に興味を持ち、外科医志望者が増えることを望んでいます」(花崎氏、以下同)

そこでは、医局員が丸となって医学生や研修生の教育に取り組んでおり、クリニカル・クラークシップにおける医学生の評価は同院全部門の中でトップ(学内調査)という実績をあげている。

「もちろん、外科医は良好な手術成績を達成しなければなりません。そのためには高い水準の外科手技の維持や、解剖学的な知識なども必要ですが、加えて良好な人間関係を築き上げることも大切です」

同医局では、先輩-後輩、患者-医師、医師-看護師などにとどまらず、夏季には若手医局員を中心に国内の専門機関への短期見学を積極的に勧めているほか、国際学会でのプレゼンテーションを経験させるなど、ネットワークを構築するためのさまざまな機会を用意している。

「また、手術成績、予後の解析などを行って真摯に反省する。研究内容を英語論文で

世界に発信する。こういった活動の継続が多角的に物事を判断できる外科医の育成につながると確信しています。自分が成長していると感じられる環境でなければ、若手は外科を選ばないでしょうし、選んだとしてもモチベーションを維持できません。成長を実感できる環境を整えなければ、将来の外科学、ひいては医学を牽引していく人物は育たないと感じています」

同医局では、中高生を対象とした手術体験セミナーや、医学生対象の見学ツアーセミナーなどを企画し、外科医学の興味深さを伝えているようだ。

## 女性医師が働きやすい 労働環境をめざして

「これまで外科に入局する女性医師は少なかったのですが、最近では、当医局にも新入局員、入局予定者ともに女性医師がおり、今後も引きつづき女性医局員が増加していくと想定されます。新たな外科医の確保という視点からも、女性の働きやすい環境の早急な整備が重要でしょう」

同医局では「lady first department of surgery」(女性に優しい外科教室)の実現を目標のひとつとしている。

「一度離職した女性医師が医療の現場に復帰するのは非常に困難。そのため、結婚、出産、育児に際しても、できるだけそれらがHandicapにならないように、仕事を継続できる斬新なシステムを構築中です。産休や育休はしっかりとる。復帰後も、たと



医局員の皆さん

えばお子さんの急な発熱時などは看病を優先する、といったかたちで働いてもらいたいですね。同時に、そういった環境の必要性を医局員全員が理解し、バックアップする体制を整えていかなければなりません」

現在、1歳の子どもを育てながら、後期研修医として同医局に勤務する志賀氏は、次のように話す。

「育児に負担がかからないように、勤務時間を考慮してもらい、無理なく働いています。当初は、限られた時間の中で必要な技術をきちんと修得できるのかと不安に思っていました。関連病院を含めた特別な研修スケジュールを組んでいただけたおかげで、外科専門医の取得という目標に向けて順調に手術症例を重ねています」

花崎氏は、今後も女性外科医のキャリア構築に対し、柔軟で細やかなトリートメントに努力を惜しまない考えだ。

### DATA

高知大学医学部 外科学講座外科1

□所在地等  
所在地：〒783-8505 高知県南国市岡豊町小蓮  
TEL：088-880-2370  
URL：http://www.kochi-ms.ac.jp/~fm\_srg1/index.html

□構成  
教授1名/准教授1名/講師2名/助教6名/  
医員3名/研修医2~3名